

Our Life No.128

* 内 容 *	➢ 2019年度から2020年度へのリレーション 25年の節目に……………p.1
	➢ 県社協ふれあい基金助成事業「共創社会実現研究会」の総括……………p.2
	➢ 「大人が変わる, 地域が変わる, 子どもが変わる地域づくり」第3回公開型研修会から……………p.3
	➢ 2020年度全体会開催案内 事務局日誌拝見……………p.4

“静岡発 福祉文化の創造” 2019年度から2020年度へのリレーション 25年の節目に

2020(令和2)年度の活動は、2019年度を引き継ぐ

活動テーマは、「つながるご近所の再構築 決め手は一体何か、ご近所福祉の復活「近助」を探る」

本会は、阪神淡路大震災発生一年後の1996年9月に結成して、今年度は25年目の節目の活動に入る。「災害と福祉文化」を追求する「地方発福祉文化の創造」に取り組む志縁組織の市民活動集団ともいえる。今日、大きな社会の変化で、災害問題をはじめ、長寿者・子どもの問題にとどまらず、地域社会全体の個人志向・希薄化と共に、福祉コミュニティ組織も複雑多様化した課題が浮き彫りになっている。

本会の活動の基調は、第一に「専門性と市民性の融合」、第二に「公開型地域総合型学習の企画と実践」、第三に「課題解決に向けたプロセス重視」を、結成当初からこれまで福祉実践活動に掲げて展開し、今日に至っている。こうした「活動基調」をもとに、さらに、3つの柱立て(第1の柱立て「啓発学習事業」, 「静岡発(地方発)福祉文化の創造」)をめざして、県内各地の実践活動に学び「課題提起」をしつつ啓発学習に取り組んできた。第2の柱立て「調査研究事業」。この24年間、一貫して、その時代の社会問題を検証する目的で、24種類の調査を県民の協力のもとに取り組み、その結果をその都度県民と共に地域総合型学習を通じて、課題解決に向けた議論を深め合ってきた。第3の柱立て「実践地区活動事業」。広く県内各地の実践事例を共有し合い「地域診断」をし、確かな地域性を把握し、さまざまな実践活動を展開しながら、「協働」による福祉問題解決のプロセスの重要性を確認してきた。

本会のこれまでのプロセス重視から、2020年度の本会活動テーマを「つながるご近所の再構築の決め手は一体何か ―ご近所福祉の復活―」(近助とは何かを探る)を掲げる。そして、「地域環境」を再検証するとともに、地域住民一人ひとりが、住み慣れた生活圏域で「ご近所の再構築」に向けた実践に取り組む。

再デビュー「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用でご近所福祉復活に取り組む

本会は、7年間、静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に取り組んだ。そして、「ホッと私のご近所福祉を創る」をテーマに、2013年度から2015年度までの3年間にわたり、若者と共に「生活圏域におけるささえあいを“ご近所福祉”と捉え、研究協議と福祉文化実践活動の末、「若者発 ご近所福祉かるた」(赤い羽根共同募金助成事業・鈴与マッチングギフト助成事業)を企画し製作実現化した。本会会員をはじめ、県内各地の団体・地域実践者に成果物を提供し、「ご近所福祉を学ぶ」教材として有効活用を託してきた。改めて、5年目を迎え、いまこそ「ご近所福祉の復活」を呼び掛け、成果物の活用度合いを確実に把握し、「若者発 ご近所福祉かるた」の再デビューを呼び掛け、理論と実践の融合による「近助」を学び合う取り組みを、2020年度の重要な活動展開とする。

ご協力下さい。会員及び関係方面の皆さん「かるた」を復活します。

早急に、「かるた」のこれまでの活用状況を把握し、改めて活用方法を提示し、今年度の活用を強化します。

県社協ふれあい基金助成事業「共創社会実現研究会」の総括

本会では、2019年度、県社協ふれあい基金助成事業により、子ども支援に取り組まれている、県内実践活動者と本会会員等13名により、「共創社会実現研究会」を設置し、活動テーマ：「子どもの福祉文化を創る」（子どもの地域孤立化防止と仕組みづくり）を基に、子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくりについて、9月、10月、1月の3回研究会を開催し、子どもたちが住み慣れた地域社会で安心して暮らし合える望ましい地域環境（孤立・孤食・欠食等）を創るには、一体、大人社会は、いかにあるべきかを議論し合った。「研究会の設置の意義と方向性」を共通認識し、2年間にわたり実施した「大人対象と子ども対象の調査研究活動」の結果を基に、いかに、「大人社会」は、地域づくりに取り組むべきかを議論した。その他「地域社会の現状把握」「現場に学ぶ子どもを取り巻く地域環境の検証」「これからの子どもを育む地域づくりに求められるものは何か」等から、幅広い意見をいただいた。



【第3回研究会「子どもを育む地域ぐるみのささえあう仕組みの提言」から】

最終回の「第3回研究会」（2020年1月11日開催）から浮き彫りになったキーワードをまとめる。

- 子どもを取り巻く生活状況から
 - ✓ 男の子の家庭内での存在 手伝いが消極的 意識的に参加機会を持つことが大事
- 地域社会・大人社会を取り巻く状況から
 - ✓ 大人の意識改革が今大きく求められている
 - ✓ 地縁組織の希薄化・弱体化が危惧される 将来を担う子供たちを常に考えていく地域社会づくり
 - ✓ 子ども達はお祭りを切望している 大人社会が、地域行事を維持していく工夫が求められている
 - ✓ 地域組織の必要性を単に地域の問題を処理することなく、発展的に解決するための組織化を探る。「地縁組織（お互い様）」（自治会、町内会）が、全てを解決できる限界がある。地域住民が、それぞれの立場で、新たな「志縁組織（使命感）」との融合のもとに活動する。「地縁組織と志縁の融合」を基に、「子どもを育む、これからの地域づくり」に取り組む。
- 子どもを取り巻く今日的な地域問題は、大人社会の問題そのものであることを認識する
- 私たちが受け止めなければならない「地域概念」とは何か
 - ✓ 足元福祉 身近な顔の見える生活圏域で、世代を超えた関係づくりを考えられる環境。子どもの問題は、全世代にまたがる問題ある。
 - ✓ 子どもを育む地域づくりに、若い世代が地域参画し、地域を知る場を大人社会が教えていく。年代を超えた学びをする社会の仕組みが求められる。
 - ✓ コミュニティの原点を全ての世代が理解し合う学びの場が求められる
 - ✓ 地域参加における役割を定める 理解すれば、入ってくれる人がいる
 - ✓ 学校と地域の壁はあるように感じる 地域からむしろ学校に発信していく努力
 - ✓ 地域を語るときに、五体満足の人を基本においている。いろんな人がいて当たり前（障がい者、子ども、引きこもり…etc.）。大人が変わる、地域が変わる 子どもが育む地域をめざしたい。
 - ✓ 当事者的視点での議論から相互理解し、社会 医療、教育、「市民化」する
 - ✓ 制度を変えていく地域活動は、問題解決型と将来投資型と選択肢はいろいろある。PDCAの原理を活かす。近所付き合いを学び合うことが必要。専門性と市民性の融合の努力。
 - ✓ 家族と地域を重視 また、これらをつなぐ仕組み（コーディネート機能）

第3回公開型研修会で、2019年度子どもを育む地域づくり事業を総括する 「大人が変わる、地域が変わる、子どもが変わる地域づくり」

本会は、24年間、本会の活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く地域課題を共有した地域総合型活動」「新たな地域課題解決に向けた活動」を掲げて活動に取り組んできた。

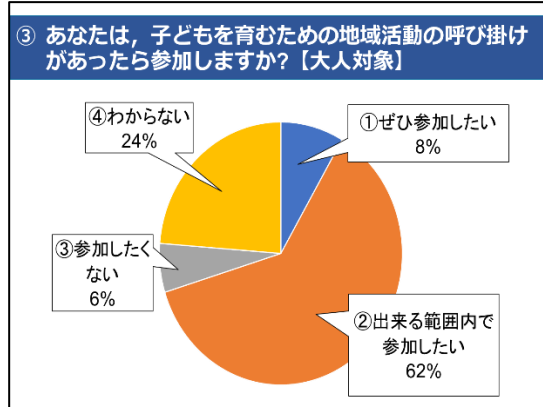
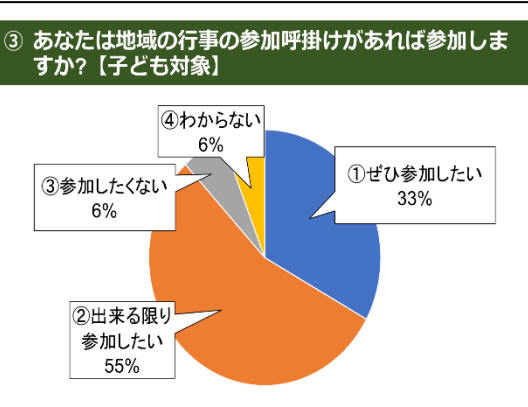
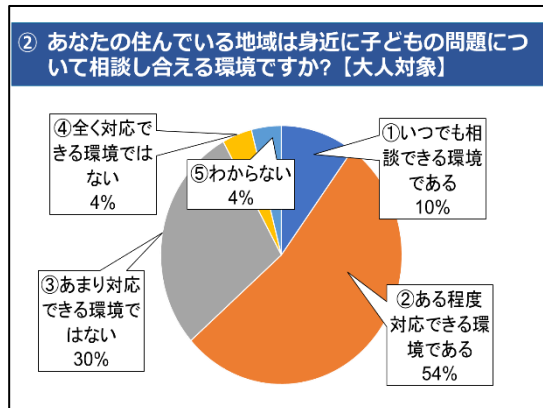
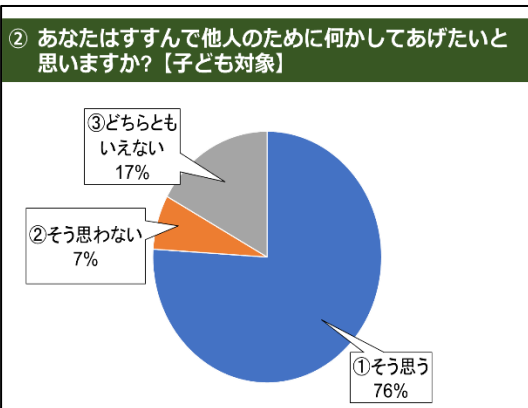
プロセスを重視し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域における「地域課題」を掘り起こし課題提起をする取り組みを「生活会議」と置き換え、身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた、今年度最後の「第3回公開型研修会」は、「大人が変わる、地域が変わる、子どもが変わるホッとする地域とは」を研修テーマに、

2020年1月11日静岡市葵区駿府町の静岡県総合社会福祉会館1Fで開催した。できる限り、小地域の生活圏域で、希薄化・弱体化している「家庭・家族機能」を検証するとともに、地域を家庭化する「子どもを育む地域づくり」に向け「子供を取り巻く地域環境と福祉文化」「静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを、学び合った。着眼項目は、

- (1) 「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、「子どもと福祉文化実践」1年間のプロセスを学ぶ場
- (2) 世代を超えて「子ども」をテーマに身近な生活圏域の課題解決に向けた議論（「生活会議」）の場とする
- (3) 大人社会の意識改革を学び合う場
- (4) 「地域の子どもの地域で育む」ためのアイデアを出し合う場

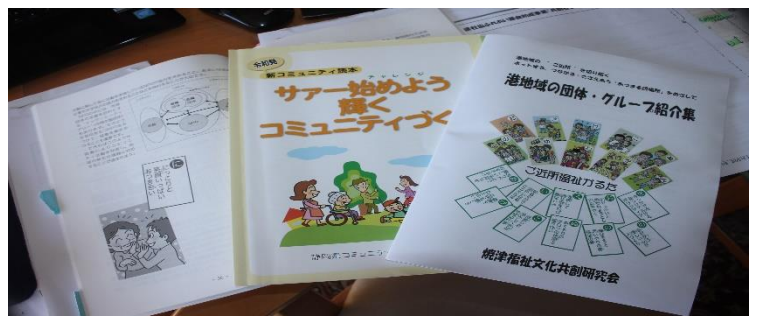
主なプログラムは、「アイスブレイクー私のご近所を語るー」、基調報告「子どもと福祉文化実践この1年」「円卓トーク：みんながホッとする地域 そのネットワークとは」では、参加者が自由に意見を述べ合った。

■ 子どもを育む地域づくりに関する調査研究活動の総括を河野会員が発表したデータを2つ発表する。



【ご近所福祉かるたを各方面で紹介していただいています!!】

本会が静岡県内在住の学生に読み札を考察していただき、赤い羽根共同募金助成事業で2016年2月に作成した「若者発 ご近所ふくしかるた」を県内の各方面で紹介していただいています。本会の2020年度の活動では、ご近所福祉かるたの活用方法を改めて、考察・実践していきたいと考えております。ご協力よろしくをお願いします。



「ご近所福祉の復活」(近助) 私のご近所 これからのご近所を創る 静岡福祉文化を考える会 2020年度第1回公開型研修会開催のご案内

去る11月30日・12月1日名古屋市中央大学において開催した「第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会」において、本会から実行委員として4名参画し、約1年間実行委員会出席とともに、運営に関わり、実践発表として3題発表の機会をもち、2019年度の活動をまとめることができた。

そして、「静岡発(地方発)福祉文化の創造」の重要性は、今日の社会情勢の中では、さらに求められる活動展開であることを確認した。2020年度、25年の節目。改めて、「ご近所福祉の復活」(近助)を活動テーマにして、下記の通り、第1回公開型研修会(本会全体会)を開催。多数の参加を期待します。

- 参加費：無料(定員：20名)
- 開催日時：2020(令和2)年2月4日(日)13:30~6:00
- 開催会場：静岡県総合社会福祉会館6F 602会議室
- プログラム：
 - (1) 基調報告「本会25年目への挑戦」「ご近所福祉を創る」
 - (2) 円卓トーク「私のご近所 これからのご近所を創る」
- 問合せ・連絡先：〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
Tel. & Fax.: 054-624-1924 Mobile Phone: 090-4861-4547

事務局日誌拝見(12月15日~2月20日)

- 12/15 ▶ 第7回焼津福祉文化共創研究会開催 「Our Life No.125」発行
- 01/11 ▶ 第201回委員会・第3回共創社会実現研究会・第3回公開型研修会開催
▶ 焼津福祉文化共創研究会2020年1月定例会開催 ・2020年度計画検討(会場手配等)
- 01/12 ▶ 第3回共創社会実現研究会・第3回公開型研修会事後対応(研究会委員礼状、会計処理等)
- 01/16 ▶ 「あしたの日本を創る協会」助成事業実施報告書作成提出 県社協助成事業協議(株)ヒューン社
- 01/20 ▶ 「あしたの日本を創る協会」主催研修会出席の折、助成事業実施報告書の件確認する
- 01/27 ▶ 2019年度事業報告作成作業開始と2020年度事業計画検討
- 01/28 ▶ 2020年度全体会(第1回公開型研修会)開催計画作成
▶ 焼津福祉文化共創研究会助成事業「港地域の“ご近所”を切り拓く ホッとする、つながる・ささえあう「あつまる居場所」港地域の団体・グループ紹介集」入稿し、夕方成果物95冊納品あり
- 01/29 ▶ 沼津市地域福祉計画策定懇話会において、本会の取組み状況紹介(福祉ニーズの把握、意識と実態の格差、大人社会と子ども社会の開き)
- 01/31 ▶ 沼津市障害者自立支援協議会において、前回に引き続き、地域社会における啓発活動の重要性について、本会活動状況について紹介/「Our Life No.128」編集作業開始
- 02/08 ▶ 第11回焼津福祉文化共創研究会開催 ・「Our Life No.128」発行 関係方面配布
- 02/15 ▶ 第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会 第6回実行委員会出席し、本会の活動状況紹介
- 02/20 ▶ 会員宛、2020年度全体会、会費納入依頼、「Our Life No.125~128」、各種資料等発送

◇ 福祉文化実践活動への参加のお誘い ◇

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の1996年9月1日に発足し、2019年度に24年の節目を迎えました。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、「公開型研修会開催」「調査研究活動」「現場実践研修活動」を展開しています。さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

「静岡発 福祉文化の創造」の活動を定着化してまいります。

- ◇ 会費：社会人¥3,000 大学生以下¥1,000
- ◇ 問い合わせ：〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17
Tel: 054-367-2878 Fax.: 054-367-2884

編集後記

2019年度最後の「our life」発行となった。年間計画に掲げた発行回数を上回る7回の発行となった。今日、大きな社会の変化にあって、今こそ取り戻したい「静岡発 福祉文化の創造」を少しでも、広く会員をはじめ、県民に広報啓発していきたい思いが込められている。また、伝えたい福祉文化情報満載の年でもあった。尊い「県社協・ふれあい基金助成事業」による「共創社会実現研究会」を設置して子どもを育む地域づくりを議論し提言したこと、第30回学会東海大会への参画で本会の存在を顕示出来た。更なる努力を。